

6. 学生スタッフの班活動

センターでは、学生スタッフが日常的に活動しています。センターの活動や認知度を高めたり、センターの環境を整えたり、また、コーディネートのスキルアップなどを目的に、班に分かれて活動しています。

今年度も昨年度に引き続き、コロナ禍のため計画通りの活動ができませんでしたが、班によっては計画を立て直し、工夫して取り組みました。柔軟な対応、発想の転換といったことが求められ、みんな苦労していましたが、今年度の経験は大きな糧となることと思います。

班名	コーデ班（深草）
趣旨・目的	学生スタッフのコーディネートに対応する力を向上させる。
班メンバー	安本大輝（法学4） 林 海斗（文学4） 黒崎雄太（経済4） 濱田 葵（文学3） 早川歩伽（文学3） 永野凌平（経営3） 伊野涼雅（短大2） 山本那津子（短大2） 大原健太郎（経営2） 中川莉子（法学2） 松本裕生（政策2） 影裡天音（経営1） 太田雄斗（文学1） 馬場康世（文学1） 富田康平（文学1）

1. 活動目標

- ① コーディネート力向上のために、学生スタッフに向けたプログラムを多く開催すること
- ② 班として、学生スタッフみんなから頼られ、コーディネーターの次に頼れる存在になること

2. 活動内容

- A コーデ講座：コーデの基本的な流れと Q & A、卒業生からのコメントを撮影、編集し動画を作成した。
- B 模擬コーデ：
 - ・前期にはスタッフ MT で、くじ引きで来室者の役柄を決め模擬コーデを行った。
 - ・後期には模擬コーデ週間を設けシフト中にそれぞれ模擬コーデを行った。
- C その他：
 - ・班プレゼンの班紹介動画作成（ボラボラ TV）
 - ・コーデマニュアルの更新
 - ・シフトについての質問を募集し、解決する問題解決イベント
 - ・学スタ名鑑を新しく作成
 - ・スタッフ MT でシフトの意味について考える時間を設けた。

3. 目標の達成について

- A コーデ講座：スタッフ MT 中の講座以外にも、

いつでも動画を観られるようにしたので、新スタッフ加入後に視聴し、コーディネートを行うための参考になったという声があった。

- B 模擬コーデ：実際にコーデをしたことのない学生スタッフにも、コーデを体験してもらうことが出来た。
- C その他：

- ・班紹介の動画は、作る側も見る側も楽しめるものを作ることが出来た。
- ・コーデマニュアルは、学スタにとって有用で、使用機会も多くあった。

4. 学んだこと・今後の課題

来室者対応を経験したことのない学生スタッフや、コーディネートに不安を抱えている学生スタッフにとって、動画を作成したことでコーデの基本的な流れを知ってもらい、実際のコーデに活かしてもらえたことがとても良かった。動画内で、学生スタッフの対応が堅すぎるといった意見もあり、コーデの仕方について、より実践的な体験ができる機会を作るべきだと感じた。

班からの議題としてスタッフ MT で時間を貰い、話題提供や話し合いの場を設けることもあり、進行に多くの班員が携わり、経験できた。しかし、反省点として参加する側の反応をよく見ながら進行することや、ハイブリッド型の MT では全員がスムーズに話し合いに参加できるよう工夫をして、進行をするべきであったと気が付いた。

2021年の活動計画書に記載していた活動を全て実施することは出来ず、どの活動をどのぐらいの期間で行うのか、長期休みやスタッフ MT の開催日なども考慮しながらスケジュール設定を行う必要があった。来年度は、今年度よりも多くの活動をする予定なので、スケジュールに気を付けて進めていきたい。そして学生スタッフがよりコーデを行いやすい環境になるように周りの環境の整備にも取り組みたい。



〈報告者：瀧田 葵〉

班名	広報班（深草）
趣旨・目的	様々な広報手段を通して、本学学生や教職員にボランティア活動の啓発を行い、ボランティアに興味・関心を持ってもらうきっかけを作る。また、ボランティア・NPO 活動センターの周知を行い、センターの認知度向上を目指す。
班メンバー	神田瑞季（経済4） 森清文聡（法学4） 世田丈貴（法学4） 渡邊愛加（法学4） 川根脩那（法学3） 園原 聖（法学3） 竹内祐人（法学3） 井関萌乃（文学2） 岡 智浩（文学2） 喜多真央（文学2） NGUYENGOCTHUC（文学2） 小峠友香（経済2） 西上和希（法学2） 馬越友梨（文学1） 的場美佳（文学1） 小木曾圭太（経済1） 水口璃々佳（経済1） 小倉未椰（経営1） 奥田真史（政策1） 大渡恵美（国際1）

1. 活動目標

龍大生と教職員に対して、龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター（以下、センター）が行なっている活動を広報誌などの配布物を通して、認知してもらう。

2. 活動内容

○広報誌「ボラゴン」の発行

当初の予定では、春と秋に計1500部発行する予定であったが、状況が変わり、配布物を配ることができなかったため、予定を以下のように変更した。

1. 秋号 6 ページ 約300部印刷およびHP掲載(10月)
 - ・企画の紹介（龍谷祭、南区ふれあい祭り）
 - ・学生スタッフのボランティア体験談
 - ・新学生スタッフインタビュー

○ボラセンタイムズの作成

当初は春、夏、秋、冬の4回作成予定だったが、オンライン等で予定通り活動が進まなかった。そのため予定を以下のように変更した。

1. 夏号 A 4 両面 1 枚、HP 掲載のみ（6月）
 - ・センターの紹介
 - ・学生スタッフの紹介

・Q&A

2. 秋号 A 4 両面 1 枚、約400部印刷および HP 掲載（11月）
 - ・ボランティアランキング
 - ・龍谷祭に代わる企画、『Volustagram』の告知

○ツイート作成ワーク

週1回、各班から代表者を1人ずつ選び、ツイートを作成。全員でツイートに携わることによって、日々の情報更新の大切さを確認し合った。

○ポスター作成

センターの認知度向上に加えて、来室者にボランティアを紹介してボランティア人口を増やすことを目的に実施。4つのグループに分け、デザイン重視で作成。また、SDGs も絡めている。掲示はまだできておらず、次年度中に掲示予定。

3. 目標達成度

- ・センターのツイートを見て、ボランティアに興味を持って来室してくれた人たちが何人かいた。
- ・ボラセンタイムズがきっかけの来室者がいた。
- ・班員にとっても、ツイートやボラゴンの記事を作成することでボランティアの魅力などを再認識したり、ボランティア初心者に対するアプローチの仕

方を考えたりする良い機会になった。

- ・オンラインと対面の併用が多く、ミーティングをする際に大変だったが、新しい広報誌を作成するなど、できることが増えた。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・ボラゴンの目標発行回数出せていなかったため、スケジュール管理をしっかりするべきだった。
- ・新しく始めたボラセンタイムズの形式を定めずに作成していたため、フォントやレイアウトの場面でそれぞれバラバラになっていたため、事前に統一しておくべきだった。
- ・新しいことにチャレンジする事が出来たので、次

年度以降も挑戦を続けたい。



〈報告者：園原 聖、竹内 祐人〉

班 名	アクティブ班（深草）
趣旨・目的	<p>クリエイティブ班と渉外班が合体したアクティブ班では、「ボラセンをより活発にしよう」という想いで、以下を目的に活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来室者が利用するにあたってよりわかりやすく、親しみやすい雰囲気づくりをする。 ・来室者に向けてより具体的なボランティアの紹介や、学生スタッフのボランティア意識の向上を目指して、学生スタッフに向けた地域でのボランティア活動のきっかけづくりをする。
班メンバー	<p>森日奈子（文学4） 西野亜優（経済4） 松尾宗次朗（経済4） 山崎迅一郎（経済4） 福島麻斗（経済4） 西村志穂（政策4） 平尾萌衣（政策4） 石井翔大（法学3） 谷垣俊弥（法学3） 小林初音（国際3） 崇田ゆきの（文学2） 西村柊哉（文学2） 徳田光輝（文学2） 三野涼介（経済2） 岡田祐依（経済2） 松本航紀（経営2） 宗森公希（法学2） 林田涼佑（法学2） 山下陽菜乃（文学1） 松島和奏（文学1） 神月麻伽（文学1） 諸岡瑞紀（経済1） 榎 海斗（法学1）</p>

1. 活動目標

- ・学生スタッフ（以下学スタ）のボランティア経験を増やして、コーディネートでその経験を活かせるようにする。
- ・来室者や学スタが居心地の良い空間にする。

2. 活動内容

- A 新規ボランティア参加：アクティブ班を中心にボランティア募集をし、新しいボランティアへの参加を学スタとともに行う。
- B ボランティアノートの作成：地域団体のボランティアへ参加し、その情報をノートで共有して、様々なボランティア紹介に対応できるようにする。
- C 季節のポップ作り：春、夏、秋、冬で季節にあっ

たポップを画用紙や折り紙で作し、スタッフルームの雰囲気づくりをした。

- D ボランティア勉強会：コロナ禍でボランティア参加が難しい。そこでボランティアの経験談を学スタの上回生から聞き、ボランティア意欲の向上を目標とし、開催した。

3. 目標達成度

- A 新規ボランティア参加：後期に2度（深草商店街の朝市、大津のこどもソーシャルワークセンター）参加することができた。
- B ボランティアノートの作成：ボランティアには行ったが、ボラセン紹介動画やボランティア勉強会を優先してしまい、作成まで至らなかった。
- C 季節のポップ作り：それぞれの時期にチラシラックの上にポップを作ることができ、雰囲気

づくりに貢献できた。

D ボランティア勉強会：11月下旬に1回と12月上旬に2回、班の垣根を越えて開催し、総勢15名ほどの学スタが参加した。参加者には好評だった。

4. 学んだこと・今後の課題

計画は立てられていたが、何をいつどうするかを曖昧に計画していたので、全体的に後ろ倒しになってしまった。後ろ倒しになることをある程度は把握しておき、それをもとに計画をしていくべきだった。

コロナ禍でなかなか対面で会えないというところもあったと思うが、班内での意思疎通が取りきれていなかったところも反省点である。意思疎通がもっと取れていれば、班全体で色々な新しい取り組みができていたと思う。ボランティア団体の情報もオンラインで収集出来ていればより良い班活動になっていたと思う。

ボラセンでも対面での情報発信に限られる中、オンラインで色々な情報を提供することを必要とされている。そこで動画を一部の人が作れるのではなく、みんなが作れるようになることが今後必要である。



〈報告者：石井 翔大〉

班名	コーデ班（瀬田）
趣旨・目的	学生スタッフが授業の空きコマにシフトを組み、来室者へボランティアの紹介・情報提供を行う活動を、コーデと呼んでいる。そのコーデ時間の管理や企画などを通して学生スタッフのボランティアコーディネート力向上のサポートをする。他の班とは違い、完全に学生スタッフに対して働きかけ普段のコーデをより快適に、より有意義なものにできるように整備する。
班メンバー	東 里音（社会4） 木ノ上莉那（社会4） 川上賢人（農学3） 杉山わかな（社会3） 中西亮太（社会2） 谷垣美幸（農学2） 亀田暖人（社会1） 川口克基（社会1）

1. 活動目標

- ・学生スタッフは原則週に一回コーデシフトに入ることになっているが、人数の偏りや授業の被りなどで誰も入れない時間帯がなるべく起こらないように調整する。
- ・昨年度はコロナ禍による活動制限で来室者が少なかったため、コーデに慣れていない学生スタッフが多い。よって、学生スタッフ全員がコーデを円滑に進めやすくするために、コーデについての適切な理解と十分な練習の機会を得られるようにする。
- ・活動制限下では学生スタッフ同士の親睦も深めにくかったので、学生スタッフ間での交流やコミュニケーションの向上をはかる機会を設ける。

2. 活動内容

- ・例年通り、前期用と後期用にそれぞれコーデシフトを調整した。その上で、学生スタッフ不在の時間帯を極力なくするために日程を第三希望まで取ったり、週二回シフトに入る人を募集したりした。また、シフト移動などの調整を行ないやすくするため、10月にコーデシフト表をマグネット式にした。
- ・前期の活動制限により学生スタッフがコーデを行なう機会が少なく、コーデについての理解が不十分だった。そこで、コーデ機会の充足を図るため、夏期休暇中にコーデ方法のサンプル動画を作成し、10月から11月にかけてサンプル動画を元にした模擬コーデ週間を設けた。

3. 目標達成度

- ・前期は2か月程度オンラインコードだったことから、二人以上の体制になるよう調整できた。後期は学生スタッフ不在の時間帯を無くそうと、後期にはコード班メンバーが二回入る等の努力をしたが、空白は少ないながらも生まれてしまった。
- ・模擬コード週間を設けたことで、ほとんどの学生スタッフが一回以上はコードを行えた。また、ボランティアのチラシをコード中に見るようになった学生スタッフが増えた。個人差はあるものの、総体的にコードの理解は深まった。
- ・学生スタッフ間のコミュニケーションに関する企画は行うことができなかった。



4. 学んだこと・今後の課題

- ・様々な工夫は行なったものの、シフトで学生スタッフが不在になる時間帯を無くすることができなかった。
- ・模擬コードはほぼ全員が行えたが、学生スタッフのシフト中に来室者がなかったケースが多く、本コードはできていない人がいた。学生スタッフ全員で来室者を増やすための工夫を考えることが必要だ。
- ・コード中の時間の使い方を工夫するようにもう少し促せばよかった。特にオンラインコードは新規情報シートを書くこと以外に出来ることを提示しにくく、コード時間を活用できなかった
- ・今年度、新スタッフのシフト調整をコード班が行っていたが、迅速に対応するためにも新スタッフのシフト調整は初期対応をした学生スタッフの方が良いのではないかという意見が出ている。

〈報告者：中西 亮太〉

班 名	環境・整備班（瀬田）
趣旨・目的	センターの環境を整備する事で、学生スタッフの活動の円滑化、及び来室者の快適な利用を目指す。
班メンバー	家原美月（社会3） 吉岡秀太（社会3） 深木真人（社会2） 李 鵬祥（社会2） 堀井涼花（農学2） 小池日和（社会1） 松村春華（社会1）

1. 活動目標

- 学生スタッフ全員が、センターに届くチラシやポスター等の配架・掲示から期限が切れたものの廃棄までを、正しく取り組める工夫をする。
- 学生スタッフ活動スペースを整理整頓し、備品収納場所を全員が把握できるよう環境を整える。
- 学生スタッフ個々の名札と名刺を作成する。
- 学生部から提供された忘れ物の傘をセンターで管理し、突然の雨などで借りたい学生に貸し出す『リユース傘』に学生スタッフ全員で取り組んでいる。傘の管理と共に、貸出や返却時にボランティアの紹介を積極的にできるようにしくみをつくる。

2. 活動内容

通年の活動

- ・新スタッフが入るたびに名札を作成(合計14名分)
- ・傘の貸し出し確認

前期の活動

チラシと新規情報シートの配架・廃棄に関するマニュアルを作成したり、昨年度着手した新規情報シートの書き方マニュアルをコード班と協働して完成し、学生スタッフ全員が把握できるようにした。

後期の活動

- ・職員スペースと学生スタッフの活動スペースを区切るアコーディオンカーテンが設置され、学生スタッフだけでもセンターを利用できるようになったため、センターの鍵の管理マニュアルとチェツ

クリストを作成した。

- ・前期に作成した学生スタッフ向けマニュアルの効果測定アンケートや、傘貸出時にボランティア広報ができてきているかのアンケートを Google フォームで行った。
- ・10月に学生スタッフスペースを整理し、3月に大掃除を行った。
- ・リユース傘貸出時の広報以外にもセンター利用促進の一環として、設置図書の中からテーマに沿って数冊ピックアップし、Twitter で発信した。

3. 目標達成度

達成度が高い活動としては、チラシの配架・廃棄はマニュアルの効果測定アンケートで殆どの学生スタッフが把握し、それに従って行えているとわかったことや、不用品を整理したことによって各備品の収納場所が把握しやすくなったこと、鍵の管理も特に問題なく運用できていることである。

一方、名札作成は随時できたが、班メンバーの中で取り組んだ人が偏っていたため、70パーセント程度の達成度だと考える。傘の貸出時の広報については、アンケートに回答した学生スタッフ32名のうち、貸出時にボランティア広報をおこなえたのは全体の1割であったため達成度は低い。前期は対面活動に制限があったため、残りの9割の中にはそういった機会さえなかった人が殆どだった。

今年度始めた図書コーナーも含め、学生スタッフによるセンターの利用促進方法を模索していきたい。



4. 学んだこと・今後の課題

まず、マニュアルを作成することによって学生スタッフ間で理解度がある程度統一できると分かったので、今後は100%の周知を目指したい。また、リユース傘の貸出、返却時には必ずボランティア情報の宣伝を行えるように新たな工夫が必要だと感じた。

図書のピックアップの活動やアンケートの実施など、今年度から新たに始めた活動が多いので、ミーティングをこまめに行ったりして、今後試行錯誤しながら続けていきたい。

〈報告者：深木 真人〉

班名	広報班（瀬田）
趣旨・目的	主に龍谷大学の学生に向けてボランティア情報等を発信することによって、ボランティア・NPO活動センターの存在をアピールするとともに、ボランティア啓発を行う。
班メンバー	青山友香（社会4） 高岡宏幸（社会4） 平井未来（社会4） 小沼芳暉（理工3） 林 大誠（社会3） 安原拓真（社会3） 小谷悠真（農学3） 遠藤瑞規（先端理工2） 中山美代子（農学2） 鳴海彩紀（農学2） 平石陽菜乃（農学2） 小上馬怜美（農学1） 三枝亜伽莉（農学1）

1. 活動目標

- ・【広報誌】：
学生に向けてボランティアの情報を発信することにより、センターへの人の流入を目的とする。
- ・【掲示板】：

多くの人の目に留まることでボランティアを行う人の人数を増やす。

- ・【SNS】：

学内に留まらず学外にもボランティア・NPO活動センターの存在をアピールする。活動報告などを行い、活発なボランティア活動を促す。

2. 活動内容

・【広報誌】:

新歓号を2000部作成し、新歓期間やその後のガイダンスの際などに学生スタッフみんなで配布した。

・【掲示板】:

掲示板での広報活動を計画していたが、取り組みなかった。広報班として掲示板での広報活動は出来ていなかったが、広報班以外のスタッフが有志で、掲示板を活用して取り組みの紹介やボランティア情報の掲示などを行った。

・【SNS】:

計画では、ボランティア体験談をTwitterで発信する予定だったが、おすすめのボランティアを11月から1月にかけて2週間に一度のペースで発信した。いろいろな分野のボランティアやこれから行われる活動の広報をしたいという思いから発信内容を変更した。

投稿日	投稿内容	いいね	インプレッション数
11月15日	ポッチャ体験会	8	1039
11月29日	晴嵐みんなの食堂	9	3812
12月13日	ポッチャスタッフ募集	5	795
12月23日	春季海外体験学習プログラム	2	1752
1月11日	かえっこバザール	10	3861
	平均	6.8	2251.8

3. 目標達成度

・【広報誌】:

新歓の広報誌の作成を行い、2020年度はコロナの影響でできなかった配布もできた。しかし、年度当初に予定していた夏号は前期の活動制限があったため、配布も難しいので発行には至らなかった。

秋号についても、コロナ禍での接触のリスクやペーパーレスを考慮した結果、SNSを用いた取り

組みに変更した。3回発行予定だったが1回にとどまったので、広報誌の達成度は40%と考える。

・【掲示板】:

広報班として取り組みができていないため未達成。

・【SNS】:

2020年度に取り組みなかったことを始められたことは良かったが、2

週間に1回のペースがアピールという点では少ないと感じるので、達成度は70%と考える。



4. 学んだこと・今後の課題

掲示板について、やろうとしてはいたものの、具体的な計画を立てずに流れてしまった。学生スタッフミーティングで掲示板の活用が議題に上がった際、広報班が積極的に動くべきだった。次年度は、今回有志がやったことを参考に、学生スタッフ全体を巻き込んだ掲示板運営にしていくとともに、細かい計画をたてて実行していきたい。

SNSについては、学内に限らずどこにいる人にも情報を届けられたり、リアルタイムな発信がしやすいなど、SNSのメリットを実感したので今後も進んで活用していきたい。ただスケジュール管理に気をつけないといけないことも学んだ。今年度は発信頻度が少なかったため、今後は増やしたいと思う。SNS広報を今年度始められたことは一つの成果ではあるので、今後の計画を見直していきたい。

〈報告者：平石 陽菜乃〉

班名	コミュニティ班（瀬田）
趣旨・目的	積極的に学生に働きかけ、相互的なやりとりを重視し、いろいろなサークルや学生と繋がりを作る
班メンバー	赤木宏斗（社会4） 大屋晴太郎（農学4） 朝野健太（社会3） 大和虹輝（農学3） 矢羽田聡志（理工3） 高橋慶多（社会2） 松村優輝（農学2） 美野田愛（農学2） 幸山悠大（社会1） 中村あや（社会1）

1. 活動目標

- ボランティア系サークルとつながりを作り、お互いの活動に活かしたり活動を発展させたりする。
- 学内サークルを含めた一般学生にボランティアの身近さ、やりがい、楽しさを知ってもらえるような体験の機会をつくる。
- 自分たちの活動を地域でも活かしたいと考えているサークルに対し、活動場所の提供や情報交換の場として実施してきた「サークル情報交換会」に継続参加してもらう。

2. 活動内容

●学内サークルへのボランティア促進

手話サークル Do Activity Yourself（以下、DAY）はメンバー同士で練習を重ねているものの、外に向けての活動ができていないという課題を抱えていることがわかった。今後のつなぎ方を模索するために、まずは学生スタッフに手話を教えてもらう機会を設けた。

内容としては、簡単な自己紹介をしてみる、ゲームを通じて手話を覚える他、聴覚障がいについての理解を深める時間などを設けてもらった。他にも、ボラセン側の希望で緊急、災害時に使うような手話はどのようなものなのかを学ぶ時間を設けた。

3. 目標達成度

活動目標 A…

手話サークル DAY と交流しながら手話を学ぶ機会の開催について、アンケートでの充実度では、以下のとおり比較的満足度が高い結果となった。

満足度	100%	90%	80%	75%	70%	50%
人数	1名	5名	2名	1名	1名	2名

双方の感想は以下のとおり。

【DAY メンバー】

- 手話を教えることは自分の中で整理することになるのでいい機会だった

- 他団体と交流する機会がなかったので新鮮でよかった。

【学生スタッフ】

- 聴覚障がいについての認識を深めることができたので良かった。
- 緊急時、災害時に使う手話を知ることができたので実際に使いたい。

活動目標 B…

ポッチャチーム『ライトニング滋賀』の活動に班メンバーが参加させてもらうことによってポッチャボランティアの理解を深め、その後学内で参加者募集をしてボランティア促進につなげる狙いがあった。団体での活動日程の調整中に新型コロナウイルスが感染拡大したため、班活動としては中止としたが、その後学内でのボランティア企画として、班メンバーが中心となって『ポッチャ体験』を11月27日に開催した。

活動目標 C…

2020年度まで開催していた『サークル情報交換会』の形態から、個別の相談に応じる『サークル×ボランティア活動相談会』に変更することになったため、実施に至らなかった。

4. 学んだこと・今後の課題

- 班活動の中で進捗状況がわかっている人とわかっていない人の差や、負担の多い人と少ない人の差が出てしまった。来年度は事前の準備、班内での共有を徹底したり、みんなが少しずつ分担していきたい。
- 昨年度までの『サークル情報交換会』が形態を変えたことから、班活動としては新しい取り組みを模索することになった。手話サークルとのオンライン交流会が今後どのようなことに活かせるのかも含め、今後のコミュニティ班のあり方を考えていきたい。

〈報告者：朝野 健太〉

班 名	発掘し隊 (瀬田)
趣旨・目的	実際にボランティアに参加する事でチラシだけでは分からない情報を得る。そのボランティアの魅力が発掘し、得た情報を発掘ノートにまとめて一般学生や学生スタッフに共有する。それを通し、より良いコーデになるようにする。
班メンバー	木下綾華 (社会4) 土肥亮太 (社会4) 南 佳奈 (社会4) 井尻由梨香 (社会3) 一色剛滉 (社会3) 小川俊也 (社会2) 片岡克望 (社会2) 池本結希菜 (社会1) 成川雅妃 (社会1) 丸山汰一 (農学1)

1. 活動目標

- 3か所以上のボランティア活動に参加し、その魅力を伝える発掘ノートを作成する。
- 発掘ノートは完成し次第、学生スタッフミーティングで共有し、コーデでの活用を促す。
- Twitterで参加したボランティア先の魅力や情報を伝える。

2. 活動内容

- 班メンバーを2チームに分け、同時期に2か所へのボランティア参加を11月頃に計画した。
 - ①深草商店街 土曜朝市…12月11日 (土)
 - ②よって子ミナクサ…12月14日 (火)
- 上記2か所のボランティアに参加後、2週間以内にそれぞれでボランティアに参加した際に得た情報やボランティア先の魅力について発掘ノートにまとめた。発掘ノート作成後、学生スタッフミーティングで2か所のボランティア活動情報についてPowerPointを用いて報告し、共有した。共有後、報告に使用したPowerPointを印刷し、発掘ノートに差し込んだ。

3. 目標達成度

本来は前期にも一度ボランティアに参加する予定だったが、緊急事態宣言の影響で中止となった。Twitterでの情報発信は、実施することができなかった。

4. 学んだこと・今後の課題

- 発掘ノートを作る際に欲しい写真がなかったりということがあったので、今後ボランティア参加する際は、発掘ノート用の写真撮影担当を決めておきたい。
- それぞれの質問が被ったり、滞ったりということがあったので、今後は事前に団体への質問を細かく共有していきたい。
- ボランティア参加した内容を学生スタッフミーティングで共有する際、発掘ノートに書いた内容の中で重要な点や今後のコーデに活かしてほしい点など、ポイントを短時間で的確にプレゼンできるようにしていきたい。
- 再び新型コロナウイルスの感染拡大により対面のボランティア参加が難しくなった場合は、オンラインで実施されているボランティア活動や、寄付系のボランティア活動への参加も視野に入れて、活動が途切れないようにしていきたい。
- 班員同士の意思疎通や予定合わせに滞りが見られた場面が稀にあったため、ボランティア参加前後には日程の細かいスケジュールを作成し、班の中で共有していきたい。
- 計画していたTwitterでの発信を失念していたため、今後は活動中の役割として分担していきたい。

〈報告者：片岡 克望〉

